

Marshall

AMPLIFICATION

VintageModern

2466, 2266 & 2266C



Owners Manual

Marshall

ジム・マーシャルのメッセージ

「ビンテージ・モダン・シリーズ」をお買い上げいただきありがとうございます。

ミュージシャンがアンプを選ぶ上で最も重要なポイントはそのアンプが生む基本的なトーンだと私は信じています。経験を積んだエレクトリックギターの演奏者を私も大勢知っていますが、彼らは容易に自分を表現できるアンプを探し求めています。音楽は他の言語と同じで、アーティストの感覚や感情を聴衆に伝えるものです。ギタリストは、微妙なニュアンスやダイナミクス、アグレッシブさ、抑制、タッチがつくり出す宇宙を、耳の良いリスナーに理解できる言葉に翻訳しているのです。これが私たちのビンテージ・モダン・シリーズのアンプの根本にある哲学です。

長年の間に私はギター・アンプの世界におけるいくつかのトレンドを目の当たりにし、あらゆる世代の人々のコメントや意見に熱心に耳を傾けてきました。そして私が気づいたのは、テクノロジーとともに前進して業界の急速な進歩を生かしながら、私の会社の成功の基盤となった昔ながらのマーシャル・トーンを保存しなければならないということです。お買い上げになったアンプは、60年代、70年代のビンテージ・トーンと最近のシリーズに見られる機能を融合したものです。

このアンプは、プレーヤーの肉体的な動きとギターのボリュームとトーン・コントロールの巧みな操作に反応するよう設計されています。これはギター界のヒーローの多くがマスターした技です。また、スタイルやギターのタイプ、音楽ジャンルにかかわらず、きちんとした仕事をするアンプでもあります。これから始まるトーン発見の旅を楽しんでいただけることを願っています。



写真:ジム・マーシャルと娘のビクトリア (マネージング・ディレクター)

はじめに:

「ビンテージ・モダン・シリーズ」には、2466 - 100Wヘッド、2266 - 50Wヘッド、2266C - 50W 2 x 12コンボの3つのモデルがあります。これに付属する4 x 12キャビネットは425Aと425Bで、いずれも耐入力は100ワットです。

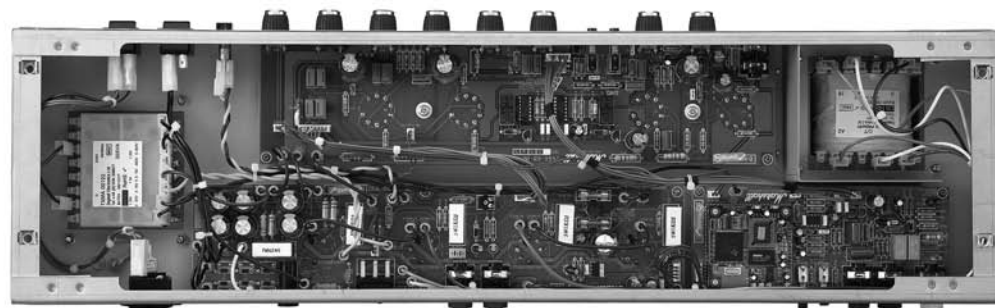
この1チャンネルのアンプは、フロントパネルの押しボタンまたは付属のフットスイッチで2つのダイナミック・レンジの切り替えができます。ダイナミック・レンジはそれぞれゲイン構造と音の特質が異なります。演奏者のタッチに反応するよう最適化され、ギターのボリュームをどこに設定してもしっかりしたトーンを保ちます。有機的でシンプルな操作により、あらかじめ設定したバッチを使うのではなく、その場でギター・コントロールを使ってサウンドを調整する昔ながらのやり方も可能です。このテクニックは今でも大勢のプレーヤーや彼らが崇拝するヒーローたちに愛好されています。

アンプを最適の設定にしたあとは、あなたのギターが生演奏に必要なさまざまなレベルのトーンやブーストを制御するコントロール・センターとなります。自分のスタイルに合った理想的な「スイート・スポット」のセッティングを見つければ、ギターはあなたの身体の一部のように感じられるでしょう。

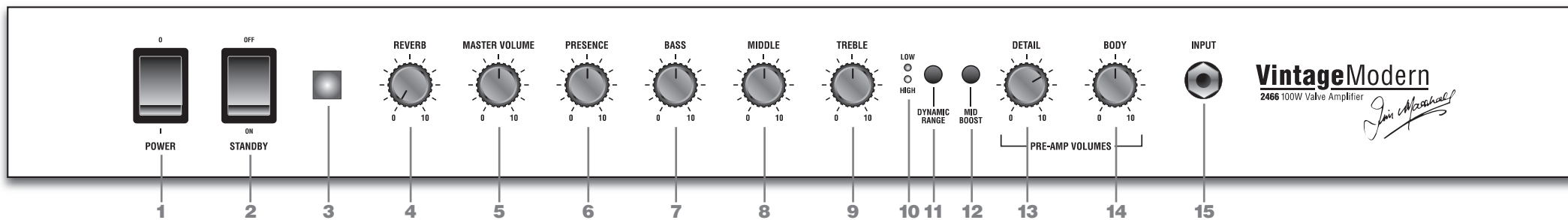
このアンプに採用された今日的な機能には、今や標準となったマスター・ボリューム、フットスイッチで切り替え可能な高品質のリバース、そして不要な場合は完全にバイパスできる-10/+4dBシリーズ・エフェクト・ループなどがあります。

新登場の機能としては、2つの周波数選択性のプリアンプ・ボリューム(ゲイン)があり、2つが連携して柔軟な音作りを可能にします。

全体的なサウンドを作る上で重要な役割を演じるパワーアンプには、本物のビンテージ・トーンを実現するKT66バルブが使用されています。これを補完するために新開発のセレクションG12Cグリーンバック・スピーカーが採用され、最高水準のマーシャル・トーンの特長であるスムーズでバランスのとれた豊かな音色を提供します。



フロントパネル (下は2466のパネル。2266Cコンボのパネルは反転しています。)



1. 電源スイッチ

アンプの電源をオン/オフします。

注:アンプを移動する時は、必ずアンプの電源を切り、電源コードを抜いた状態にあることを確かめてください。

2. スタンバイ・スイッチ

スタンバイ・スイッチと電源スイッチ(1項)を合わせて使い、使用前にアンプを温めることによって、バルブの寿命を延ばすことができます。アンプを使用する時は、必ず先に電源スイッチ(1項)を入れ、スタンバイ・スイッチを「オフ」のままにします。これにより、真空管を適切な動作温度に温めるために必要な電圧が適用されます。約2分後、真空管は正しい動作温度に到達し、スタンバイ・スイッチを入れることができます。スイッチを入れると、HT(高圧)電圧が適用されます。真空管の寿命を延ばすため、演奏の中休みにアンプをオン/オフする時は、スタンバイ・スイッチのみを使ってください。また、完全に電源を切る時は、メインの電源スイッチを切る前に、スタンバイ・スイッチを切ってください。

3. 電源インジケータ

この紫色のLEDのインジケータは、アンプが電源に接続され、電源スイッチ(1項)が入っている時に点灯します。

4. リバープ

ダイレクトのギター・シグナルにミックスされる内蔵のスタジオ品質プレート・エミュレーション・リバーブのレベルを調節します。

注:付属のフットスイッチを接続していない時は、リバーブは常時作動しています。オフにするには、このコントロールを反時計回りいっぱいに戻してください。フットスイッチを接続している時は、リバーブのレベル設定を変えずにスイッチでオン/オフできます。

5. マスター・ボリューム

アンプの全体的な出力ボリュームを設定します。

トーンについてのアドバイス:マスター・ボリュームの設定位置によって他のコントロールの最適の位置が決まるため、まずは演奏する会場に合わせてマスター・ボリュームを設定することが实际的です。

トーン・コントロール

6. プレゼンス

アンプのパワーアンプ・セクションで作動し、トーンに高音域を加えて、クリスピーで切れのある音にします。時計回りに回してレベルを上げると、サウンドの切れが増します。

7. ベース

サウンドの低音域を調節します。

8. ミドル

サウンドの中音域を調節します。時計回りに回してレベルを上げると、厚みがあるサウンドになります。

9. トレブル

サウンドの高音域を調節します。時計回りに回すと輪郭がはっきりしたサウンドになります。

ダイナミック・レンジ:ロー/ハイ

この1チャンネルのアンプは、2つのダイナミック・レンジをスイッチで切り替えることができます。

ロー・ダイナミック・レンジは、マーシャルのクラシックなビンテージ・アンプのようなゲインを提供します。このモードでは、ギターのボリューム設定により、クリーンからマイルド/中位のオーバードライブを実現できます。

ハイ・ダイナミック・レンジは、バルブ・ゲイン・ステージを加えることにより、オーバードライブ能力が大幅に増え、ギターのボリュームを最大にするとリアルなダイナミックのボリューム・ブーストが得られます。クリーンからマイルド/中位のオーバードライブ・トーンは、ギターのボリューム設定を低めにした時に得られます。

10. ダイナミック・レンジLED

ダイナミック・レンジの選択状況を表します。ブルーのLEDはロー・ダイナミック・レンジ、ホワイトのLEDはハイ・ダイナミック・レンジの作動を示します。

11. ダイナミック・レンジ押しボタン

このボタンは、付属のフットスイッチを使用していない時にダイナミック・レンジの切り替えに用います。フットスイッチを使用している時もこのボタンは機能します。

12. ミドル・ブースト押しボタン

このボタンは、ギター・トーンの中音域を強力にブーストします。シングル・コイルのギター・トーンに厚みを出す時などに試してみてください。

「ボディ」/「ディテイル」プリアンプ・ボリューム

2つのプリアンプ・ボリュームにより、好みのゲイン設定と個々のギターやスタイルに合わせた本格的な音作りを可能にします。どちらのダイナミック・レンジを選択している場合にも、2つは連携して作動し、どちらか一方を完全にオフにすることを含め、好みの位置に設定できます。この2つのコントロールのバランスをとることによって、すばらしいトーンの基礎ができます。

トーンについてのアドバイス:「ボディ」/「ディテイル」コントロールによって非常に柔軟な音作りが可能になるため、最初はベース、ミドル、トレブル、プレゼンスをそれぞれ12時の方向に設定しておいて、「ボディ」/「ディテイル」の設定が決まってから微調整することをおすすめします。

13. ディテイル

サウンドの中音域から高音域までを調節し、トーンの輪郭をはっきりさせて、あなたのギターのアイデンティティをつくり上げます。ちょうどいい量のディテイルを設定することによって、ダイナミックな演奏に要求される微妙な情報を伝えることができます。

14. ボディ

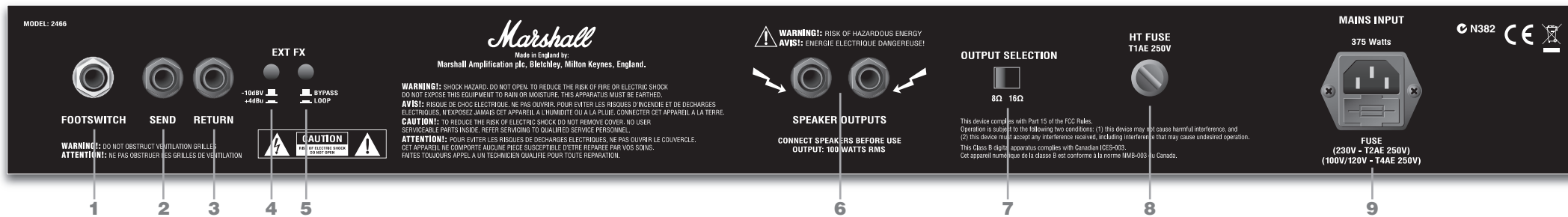
サウンドの中音域から低音域までを調節し、トーンに厚みと重みを加えます。シングル・コイルのピックアップから、高音域のディテイルを失わずにハムバッカー風の低音域を引き出すのに最適です。ミドル・ブースト押しボタン(12項)と合わせて用いることにより、ずっしりした強力なトーンを実現できます。

トーンについてのアドバイス:ギターのボリュームやトーンを最大のままにするより、変化をつけたほうがダイナミックで多様な音作りが可能になります。ギターの設定の変化がサウンドに及ぼすさまざまな影響を試してください。このアンプは、演奏のダイナミクスとギターのボリューム/トーン設定の相互作用に最適化されています。ハイ・ゲイン、ミディアム・ゲイン、クリーンのすべてがギターのボリュームだけで得られるようアンプを設定してみてください。

15. 入力ジャック

ギターをアンプに接続する高インピーダンス入力です。必ずギター用シールド付きケーブルを使用してください。非常にノイズが多くなるため、シールドなしのスピーカー用ケーブルは使わないでください。ギター・アンプの入力は信号経路の中の非常に敏感な部分で、電磁波障害を起こしやすいため、シールド付きギター用ケーブルが必要です。シールド付きケーブルは高品質のものを用いてください。疑問がある場合は、購入店でご相談ください。

リアパネル (下は2466のパネル。2266Cコンボのパネルは反転しています。)



1. フットスイッチ

付属のフットスイッチを接続することにより、ダイナミック・レンジの切り替えと、リバーブのオン/オフができます。ダイナミック・レンジのスイッチは、フロントパネルのスイッチ (11項) と同じように機能します。

エフェクト・ループ・SEND&リターン・ジャック

アンプの柔軟性をさらに高めるため、このシリーズ・エフェクト・ループに外部のエフェクターを入れることができます。フロアペダルまたはラックプロセッサにダイレクトに接続し、レベル・スイッチ (4項) によって適切な動作レベルを設定します。

2. センド

外部のエフェクトプロセッサの (モノ) 入力ここに接続します。

3. リターン

外部のエフェクトプロセッサの (モノ) 出力ここに接続します。

トーンについてのアドバイス: ディストーションやワウワウ関係のエフェクトは通常エフェクト・ループには入れません。アンプの「手前」(ギターとアンプの入力の間) に入れると最高のサウンドが得られるからです。しかし、サウンドの好みは人それぞれですから、お好みの方法でご使用ください。

4. 外部エフェクター (-10dB / +4dB)

シリーズ・エフェクト・ループに接続したエフェクターのタイプに合わせてループのレベルを切り替えます。高いレベル (+4dBV、スイッチを「入」にした状態) はラックプロセッサに、低いレベル (-10dBV、スイッチを「切」にした状態) はフロアペダルに適しています。

注: ラック用エフェクターにも同様のレベル・スイッチが付いている場合があります。その場合、アンプとエフェクターを同じレベルに設定してください。

5. 外部エフェクター (バイパス/ループ)

このスイッチは、「切」の状態にある時、エフェクト・ループにかかわる回路を完全にバイパスします。ループを作動するにはこのスイッチを「入」にしてください。

注: このスイッチが意図せず「入」の状態になり、ループに何もプラグインしていない場合、信号は切り替えジャックの内部リンクによってSENDからリターンへ送られます。このリンクはリターン・ジャックに何か差し込まれた時に接続が断たれます。SEND・ジャックは内部リンクの状態に影響を及ぼさないため、エフェクターを接続していない時には、チューナーなどへのライン出力として使用することができます。

6. スピーカー出力

警告! このアンプは、スピーカーを接続せずに使用しないでください。

スピーカー・キャビネットに接続するための2つのパラレル・ラウドスピーカー出力ジャックがあります。必ず高品質のスピーカー用 (シールドなし) ケーブルを使用してください。ギター用 (シールド付き) ケーブルは絶対に用いないでください。

これらのアンプにエクステンション・キャビネットを接続する場合には必ず高品質のスピーカー用 (シールドなし) ケーブルを使用してください。

7. 出力セクター

お使いのスピーカー・キャビネットのインピーダンスに合わせて設定します。2台以上のスピーカー・キャビネットを接続する場合は、合計のインピーダンスに合わせて設定します。疑問がある場合には購入店にお問い合わせください。

ヘッド (2466 and 2266) は、16Ωと8Ωの設定があります。

コンボ (2266C) は、8Ωと4Ωの設定があります。

注: コンボ (2266C) の内蔵スピーカーのインピーダンスは8Ωです。エクステンション・キャビネットが接続されていない場合は、コンボの出力セクターが8Ωに設定されていることを確かめてください。

8. HTヒューズ

HTヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。安全のため、ヒューズを取り外したり定格外のヒューズを使用したりしないでください。

9. 電源ヒューズ付き電源入力ジャック

付属の取り外し可能な電源コードを接続します。電源入力の定格電圧は、アンプのリアパネルに表示されています。初めて電源に接続する際には、アンプが電源に適合していることを確かめてください。疑問がある場合は、専門の技術者が購入店にご相談ください。

電源コード・ジャックの下の小さな引き出しにある電源ヒューズの定格は、アンプのリアパネルに表示されています。引き出しにはスベアのヒューズを保管する場所があります。ヒューズを取り外したり定格外のヒューズを使用したりしないでください。

注: HTヒューズ、電源ヒューズは、スベアを用意しておくことをおすすめします。

技術仕様

| | 2466ヘッド | 2266ヘッド | 2266Cコンボ |
|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|
| 出力 (RMS) | 100W | 50W | 50W |
| バルブ | 4x ECC83 + 4x KT66 | 4x ECC83 + 2x KT66 | 4x ECC83 + 2x KT66 |
| エフェクト・SEND・レベル切り替え | -10dBV +4dBu | -10dBV +4dBu | -10dBV +4dBu |
| 重量 | 22.5kg | 18kg | 30kg |
| 寸法 (mm) 幅・高さ・奥行き | 750 x 310 x 230 | 750 x 310 x 230 | 690 x 570 x 270 |

すべての注意書きに従い、警告を守ってください。
この取り扱い説明書は大切に保管してください。